



大鰐温泉郷

津軽の奥座敷

国民休養地・自然活用村



りんごの花

大鰐温泉力



[アクセス]

- ▶新幹線**
 東京駅 新幹線・はやて約3時間 新青森駅 特急つがる 約40分 大鰐温泉駅
- ▶車**
 東京 東北自動車道・約9時間 大鰐・弘前IC 国道7号線・約12分 大鰐温泉郷
- ▶飛行機**
 羽田空港 飛行機 約1時間20分 青森空港 バス 約55分 弘前駅 タクシー 約20分 大鰐温泉 JR 約12分

ご案内

大鰐町役場 企画観光課 ☎0172-48-2111(代表)
 青森県南津軽郡大鰐町大字大鰐字羽黒館 5-3



平成29年1月発行

大鰐町の歳事記

- ◎ 5月 大鰐温泉つつしまつり
- ◎ 6月 万国ホラ吹き大会
- ◎ 7月 大鰐温泉サマーフェスティバル
丑湯まつり
- ◎ 8月 大鰐温泉ねぶたまつり
- ◎ 11月 アップルフェア / もやしフェスタ
- ◎ 12月 大鰐温泉スキー場オープン!



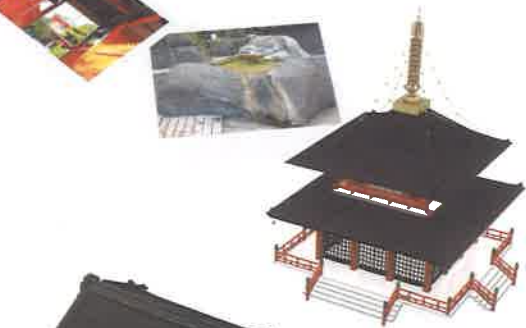
歴史は八〇〇年といわれ、建久年間(1190年~1198年)に東国を行脚していた田智上人が大鰐温泉を発見したと伝えられています。史実に現れるのは、慶安二年(1649年)に津軽三代藩主信義が大鰐に御飯屋を設け、湯治をしたという記録があり、それ以降大鰐には庄屋のほか湯の管理人「湯聖」が置かれるようになりました。

大鰐町が湯の街として賑わいを見せたのは明治時代に入ってからのごです。明治時代の交通の発展は、短期間の滞在に出来る旅人の宿を必要としました。来客により、その名が広まり、次第に湯治場として形成されていきました。

大鰐温泉の 始まりは八〇〇年前

大鰐温泉は、津軽藩の湯治場として利用されていた歴史の古い温泉です。平川の清流沿いには、近代的な宿と昔ながらの公衆浴場が仲良く軒を並べ、湯の町情緒漂う温泉郷です。

津軽の奥座敷 大鰐温泉



大鰐を全国にアピールするために、昭和五年に作詞を国井淳、作曲を当時売れっ子だった中山晋平に依頼し、大鰐小唄が誕生しました。

【大鰐小唄】

いで湯遊しい津軽の娘
花の林檎をヨイトサノセ
花の林檎を髪にさす
大鰐ヤ湯の町ヨイヨイヨイ

明治二十八年(1895年)には奥羽本線大鰐駅が開業したこと温泉場は大勢の湯治客で賑わい、また娯楽を求める人の為に花柳街が栄えたのもこの頃です。肌は雪のように白く、情けの深い津軽芸者は人気が高く、全盛期は芸子・酌婦ともに当時はかなりの数に及んだといえます。

近隣の市町を凌ぐ流割烹やカフェーが軒を連ね、人力車はひっきりなしに往来していました。時代は移り変わり、様相も変貌しましたが、その華やかな面影は今も街並に残されています。

阿蘭羅山越しスキーで来ればヨ
宿のあたりのヨイトサノセ
宿のあたりの灯が見える
大鰐ヤ湯の町ヨイヨイヨイ

温泉





大鰐の『大日様』と 親しまれて…

地元で「大鰐の大日様」と親しまれている大円寺は驚い信仰を集める名所でもあります。

大円寺の起源は、奈良時代、聖武天皇の国分寺建立に際し、本尊大日如来を阿闍羅山の大安国寺に安置したことに始まります。後に大安国寺は荒廃し、鎌倉時代建久二年(1191年)阿闍羅山千防と称された「高伯寺」(円智上人建立)に移奉されました。

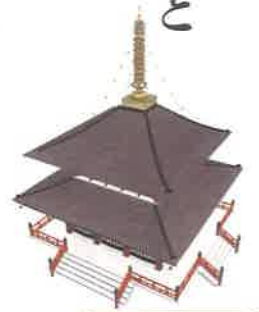
慶安三年(1650年)津軽三代藩主信義が鷹の病氣平癒を祈願したところ、病は治り、これを喜んだ信義は、本尊を京都で補修させ、御堂を現在の場所(大円寺のある場所)に建立、「神岡山高伯寺」と号し、高伯寺と本尊を移安、以来津軽家代々から崇敬を受け、江戸時代末期まで「大日様」として信仰を集めてきました。

明治四年(1871年)神仏分離の際、弘前から大円寺が移り、高伯寺の名は姿を消しました。

大日様と呼ばれる国指定重要文化財の本尊は大日如来ではなく、阿彌陀如来坐像なのです。それぞれ、なぜ大日様と呼んだか。「大日如来像が胎内仏として、中にあるのでは」という疑問もあり、大正時代に調査されましたが、何も出てきませんでした。

仏像には、通常ヒノキが用いられますが、この仏像にはヒバ材が使用されており、平泉を訪れていた都の仏師が大鰐の地で彫ったものとも考えられています。

明確な事実は不明ですが、昔も今も大日様はこの地にあり、温かな日常に欠かせない存在になっています。



大円寺
住所：大鰐町大字蔵館字村岡12
☎0172-48-2017

津軽の奥座敷に湧き出る歴史の湯



丑湯まつり
【温泉祈禱式】▶

神岡山高伯寺において円智上人は、大日如来を厚く信奉され、日夜、国土安穩、濟世利人をお祈りしたが、慣れない土地と北国の寒さが原因で病に倒れ、靈薬を服用しても改善がみられませんでした。そこで上人は大日如来に全快の願をかけたところ、不思議にも、夢に二人の童子が現れ、「病気は土用の丑の日、丑の刻（午前二時）に温泉に浴すると必ず治る」と、お告げして枕元を去ろうとする時、上人は童子にその温泉は何処かと聞くと、今の蔵館の『大湯』の方向を指して消えたという。

上人が目覚めた明け方、その日は幸いにも「土用の丑の日」だったので、上人は尊くもありがたいた大日如来のお告げと確信し、お告げの方向を探したところ温泉を発見。上人は

大喜びし、合掌してその日の丑の刻に入浴したところ、病気は全快したという。これが当地温泉の起源であり、蔵館温泉の発見由来であると、言い伝えられています。

丑湯まつり「温泉祈禱式」
毎年7月の土用丑の日に、牛にまたがった大日如来像を湯に浮かべる靈験あらたかな伝統行事が開催されます。丑の上に着座した観音像を祀り、温泉を祈禱します。祈禱された温泉に入浴すると、年間無病息災に過ごせるといわれています。厳かでありながらも、少しユニークな儀式でもあり、見の価値があります。祀られる観音様は大円寺でご覧いただけます。



会場：霊湯大湯 大鰐町蔵館字村岡53



津軽の殿様も 疲れを癒した 温もりの湯、大鰐温泉

湯魂石薬師堂

慶長年間(1596~1915年)津軽藩主津軽為信が、難治の眼病を患いました。ところが、ある夜のこと夢の中に薬師如来が現れ、「大鰐の茶臼山公園下から湧き出る温泉で目を洗えば必ず治る」とのお告げがあり、そのお告げに従って葦の原を探させたところ、大石の下から熱湯が湧いているのを発見し、その温泉で目を洗ったら、不思議にも難治の眼病が治りました。

為信は大麥喜んで、そのお札に大石



の上に小さな祠を建て湯魂石薬師堂と名付けました。それから薬師如来は、人々の篤い信仰を集め、大鰐は温泉場として栄えることになりました。

民家に囲まれた温泉街の一角に佇む湯魂石薬師堂は、ワニをかたどった湯口から、こんこんと湯が湧き出しています。現在では、「足湯」として観光客や地元の人々の交流の場となっています。

(冬期12月から3月は利用不可)

住所：大鰐町大字大鰐字大鰐194-4

1 若松会館
住所：大鰐町大鰐59-1
営業時間：6:00~21:00
定休日：毎月第2火曜日
泉質：ナトリウム・カルシウム塩化物・硫酸塩泉
効能：神経痛、筋肉痛、関節痛

2 霊湯大湯
住所：大鰐町蔵館村岡53
営業時間：6:00~21:00
定休日：毎月第2月曜日
泉質：ナトリウム・カルシウム塩化物・硫酸塩泉
効能：神経痛、筋肉痛、関節痛

3 青柳会館
住所：大鰐町大鰐野川原27-2
営業時間：6:00~21:00
定休日：毎週第3火曜日
泉質：ナトリウム・カルシウム塩化物・硫酸塩泉
効能：神経痛、筋肉痛、関節痛

4 山吹湯
住所：大鰐町大鰐69
営業時間：15:00~21:00
定休日：毎月第3木曜日
泉質：ナトリウム・カルシウム塩化物・硫酸塩泉
効能：神経痛、筋肉痛、関節痛

5 茶臼湯
住所：大鰐町大鰐野川原108-3
営業時間：15:00~21:00
定休日：毎月第3木曜日
泉質：ナトリウム・カルシウム塩化物・硫酸塩泉
効能：神経痛、筋肉痛、関節痛

1 地域交流センター 鰐come
住所：大鰐町大鰐川辺11-11
営業時間：9:00~22:00
定休日：毎月第3木曜日
風呂の種類：高温風呂、中温風呂、薬湯、ジャグジー、露天風呂 他
入浴料金：大人500円 小人250円

8 正観湯温泉旅館
住所：大鰐町長峰九十九森135-1
営業時間：7:00~21:00
定休日：無休 泉質/アルカリ性単純泉
効能：神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺
入浴料金/大人250円 小学生100円 幼児50円 乳児無料



公衆浴場と日帰り温泉

P08 P09のマップでご確認ください。

平成29年1月現在

1若松会館 2霊湯大湯 3青柳会館 4山吹湯 5茶臼湯 入浴料金/大人200円 小人80円

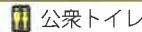
弘前方面

弘前方面



長峰・碓ヶ関方面

* 宿泊・日帰り温泉のご案内*
* 市外局番 0172



【ホテル】

1 青森ワイナリーホテル ☎48-2881 500名 和21 洋151

【温泉旅館】

- 2 星野リゾート 界 津軽 ☎0570-073-011 151名 和31 洋5 和洋4
- 3 ヤマニ仙遊館 ☎48-3171 45名 和12
- 4 観光ホテル 寿美麗 ☎48-3141 60名 和17 和洋1
- 5 不二やホテル ☎48-3221 152名 和38
- 6 昇泉閣 紅葉館 ☎48-3231 50名 和12
- 7 旅館きしもと ☎48-3267 36名 和9
- 8 正観湯温泉旅館 ☎48-3000 25名 和7 日帰り温泉
- 9 富士旅館 ☎48-3151 28名 和8



正観湯温泉旅館

【温泉民宿】

- 10 畑山温泉民宿 ☎48-2031 25名 和9 日帰り温泉
- 11 河鹿荘 ☎48-2339 10名 和5
- 12 温泉民宿 赤湯 ☎48-2315 30名 和9 日帰り温泉
- 13 ヤマニ分館 ☎48-2970 26名 和9

1 地域交流センター **鱈come** (ワニカム) ☎49-1126
高温風呂、中温風呂、薬湯、ジャグジー、露天風呂、寝湯

公共トイレ



好アクセスの
スキー場



穴場の
釣りスポット



わんぱく池の桜
大高森 369.2m
あじらの森
キャンプ場



●あじらの森キャンプ場
ケビン・バンガローを
完備した、緑に囲まれ
たキャンプ場。大勢の
アウトドアファンが訪
れ、野外炊事場、研
修センターもあり、キャン
ピングサークルにもう
つつけの施設です。

充実設備が自慢

営業期間
4月下旬～11月下旬
ご案内
0172-47-6664

大鱈温泉スキー場

青森ロイヤル
ゴルフクラブ

あじら山頂にある18ホ
ール・6,930ヤード・パー72の風
光豊かなゴルフ場です。
八甲田山や岩木山、南津軽
の大自然が一望のもとに
楽しめます。

阿闍羅大権現
阿闍羅山
709.0m▲

* 宿泊・日帰り温泉のご案内* * 市外局番 0172

【公衆浴場】

- 1 若松会館 ☎48-4001
- 2 霊湯大湯 ☎48-2214
- 3 青柳会館 ☎48-4002
- 4 山吹湯 ☎47-5975
- 5 茶臼湯 ☎47-5974

【民宿】

- 1 民宿 さかえ ☎48-2583 20名 和5
- 2 雪国 ☎48-4150 35名 和7
- 3 ペンションマリオネット ☎47-5533 18名 洋6
- 4 ロッジ ライドン ☎88-8582
- 5 ヒュッテ 銀嶺 ☎48-2363

足湯情報	1 駅前おもてなし足湯 年中無休	5月1日～8月31日 時間 6:00～19:00
	2 湯魂石薬師堂	4月2日～4月30日 時間 7:00～18:00
	3 ホットパーク加賀助	5月1日～8月31日 時間 6:00～19:00
	4 大鱈温泉介護センター あぜりあ	9月1日～11月30日 時間 7:00～18:00



おおわにおんせん マップ



ご利用期間
4月2日～4月30日 時間 7:00～18:00
5月1日～8月31日 時間 6:00～19:00
9月1日～11月30日 時間 7:00～18:00

ホットパーク加賀助
大町桂月に愛されたことでも知られた加賀助旅館の跡地に整備された足湯が楽しめる憩いの場。平川のせせらぎに癒され、大円寺まで続く真つ赤な中の橋を眺めながら足湯に浸れば心身ともにリラックスできます。



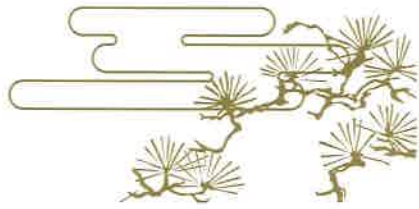
石の塔
秋田県境内有林保護林内の山頂に自然現出している一塊の巨石で高さ24m、周囲74mもあり、見るものを圧倒します。

- お食事処
- お土産店
- 足湯
- タクシー乗場
- 駐車場
- 景勝地
- 公衆トイレ
- 左頁参照
- 右頁参照



31番札所「居士普門堂」

32番札所「苦木観音長谷堂」



津軽三十三観音巡り 三十一番と三十二番

町には、津軽三十三観音の31番札所「居士普門堂」と32番札所「苦木観音長谷堂」があります。

津軽三十三霊場が設けられたのは、藩政初期となっていますが、藩庁によって制定されたものか、民衆によるものなのかは明確ではありません。ただ、西国巡礼に上がることは、金銀の流出や旅先での事

- 風呂の種類
高温風呂、中温風呂、薬湯
ジャグジー、露天風呂、寝湯
家族風呂
- 営業時間/9:00~22:00
- 定休日/毎月第3木曜日
(定休日のない月もあり)
- 大広間/9:00~18:00
- バスタオル・フェイスタオル
セットのレンタル有り(有料)



●東北初のアルバインサウナ(低温サウナ)



大鰐温泉を
手軽に楽しめる
日帰り温泉!

八百年の歴史ある

湯

大鰐町地域交流センター 湯の駅「鰐come」

ワニカム

鰐カムは、のんびりゆったりくつろげる居心地のよい施設です。温泉のほかにもおいしい食事処、スイーツ、産直品やお土産が豊富にそろい、いつも賑わう大鰐町自慢のランドマークです。館内の温泉「鰐の湯」は、木と石をふんだんに使用した二種類の大浴場で、男女日替わり入浴となっていて、どちらの雰囲気も楽しむことができます。

露天風呂・家族風呂(露天風呂付)も完備。また、東北初の「アルバインサウナ」は低温のためサウナの苦手な方にもおすすすめ。2つの家族風呂も、とても人気があります。湯上がりは大きな暖炉のある休憩コーナーでゆっくりと情緒を楽しめます。

件など、諸々の事由により、藩では厳禁したとされています。その代わり、津軽領内に「御国霊場」を定め、巡礼を奨励しました。事実上では、これが津軽三十三観音の始まりとされています。「三十三観音巡り」は、全国的なもので「坂東三十三所観音」「秩父三十四ヶ所観音」また、「奥州三十三観音」ほか、様々な地域に存在します。元々は、京都、奈良など畿内を中心とする西国に三十三観音霊場が創設され、観音信仰が盛んとなることが始まりです。

江戸時代、政情が安定すると、観音巡礼が庶民の間でも行われるようになりました。元々、古くから修験者により観音信仰が行われていたという地盤があったせいも、津軽地方からも西国に巡礼する人が多くなり、各霊場の砂を持ち帰った人々がお寺やお堂に納めました。津軽の観音霊場の地盤は、こうして人々によって生み出されたといえます。三十三観音の番付けや場所は、時代と共に変遷はあったものの、今も敬虔な祈りに包まれています。



産直売店
メルカート
営業時間/8:00~18:00
土・日・祝日 8:00~19:00



いとおし
大鰐温泉もやし
特製 うまか井

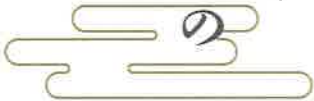
お食事処
花りんご
11:00~15:00 LO14:30



大鰐町地域交流センター
日帰り温泉
ワニカム
鰐come

お問い合わせ/TEL.0172-49-1126
〒038-0211 青森県南津軽郡大鰐町大字大鰐字川辺11-11 URL <http://www.wanicome.com/>

歴史は深く 大鰐の熟練の 技と温もり



大鰐温泉もやし

大鰐温泉もやしの始まりはとも古く、津軽三代藩主信義が大鰐に湯治するときに必ず献上したとされ、350年以上前から栽培されていたようです。そもそも始まりは、温泉が湧いていた川原にこぼれ落ちた豆がもやしになったという説もありますが、定かではありません。

大鰐温泉もやしは、大鰐町に古くから伝わる伝統の冬野菜で、「豆もやし」と「そばもやし」の二種類の種類があります。栽培の秘訣は、温泉の熱だけで地温を高める土



幻の冬野菜「大鰐温泉もやし」
写真はマメが黄色の豆もやし



「マルシチ」
津軽味噌醤油株式会社
創業明治43年。
日本唯一の
温泉醸造の工場

マルシチの味噌

明治43年、日本で初めて温泉熱を利用し醸造に成功したマルシチの「味噌」も大鰐町が誇る名産品です。大鰐温泉の熱を利用し独自の技法で丹念に発酵、長期熟成させる味噌は昔ながらの風味豊かな自然な味わいです。お土産にも重宝します。



全て、手作業で行われています。

寒暖差が育む

大鰐りんごと夏秋トマト



大鰐りんご

全国一の生産量を誇る、りんご王国青森県のなかでも大鰐りんごは、県の品評会等で幾度となく受賞をしています。大鰐りんごは、高原地帯で栽培されるため、その寒暖の差によって色付きがより鮮やかで、肉質もしっかりとしており、甘くジューシーながら保存性に極めて優れていると定評があります。

大鰐のりんご栽培は、明治11年(1876年)神岡山を切り開いて植えられたのが始まりと伝えられています。

現在、主力品種である「ふじ」のほか「つがる」「ジョナゴールド」「むつ」「王林」などいずれも栽培農家が手塩にかけた自慢のりんごです。

りんごは、寒暖の差が大きいほど、色鮮やかでおいしいとされています。高原地帯にある大鰐の気候風土は、りんご栽培に最適です。収穫の季節になると、町内のいたるところに美しく色づいた、真っ

赤なりんごがたわわに実ります。

毎年9月から11月の期間に大鰐観光りんご園では「大鰐高原りんご」の収穫体験が出来ます。もぎたてのジューシーなりんごを味わってください。

夏秋トマト

大鰐町は、あじやら山の麓にあり、トマトの生産がとても盛んです。

トマトをおいしく育てる条件は、十分な日光を当てること、昼夜の温度差の大きいこと、多湿を避けることの3箇条があります。大鰐町はトマトをおいしく育てる条件にはびつたりの場所です。

生産している品種は主に「桃太郎」が中心で果肉が崩れにくく、食味がよく、日持ちもします。どうぞご賞味ください。



あじやら山麓の水で育った
トマトは美味しい!!



真っ赤なりんごに彩られる
大鰐の風景はまさに秋の風物詩

油川貞策の父・和五郎は、当時大鰐村の名士で、のちに第二代大鰐村の村長として、大鰐駅の開業を手掛けます。油川貞策はその裕福な家庭の四男として生まれ、明治38年、二十歳で旧制弘前中学から陸軍士官学校に進みます。貞策とスキーの出会い、明治45年27歳の時です。

当時の陸軍省により、雪の多い地方から将校を集め新潟県の高田（現在、上越市）でスキー術講習会が開かれました。講師は、オーストリア大使館付の参謀、テオドル・エドラー・フォン・レルヒ少佐。この講習会に青森県から参加したのが当時、中尉だった油川貞策と他3名。三週間のスキー講習を終えて弘前の連隊に戻った貞策は、部下に指導を始めます。

貞策がスキーの指導者として本格的に活動を始めたのが、大正4年1月、29歳の時です。各方面から貞策を指名してのスキーの講習会の依頼が軍に入ります。軍上層部は軍事目的のスキーが民間に普及すれば、より好都合とこれを心よく承諾。

一方の貞策は、スポーツとレジャーが民間に普及すれば、雪国の冬の暮らしが豊かになると信じ、当時としては珍しい軍人と民間人の交流が始まりました。一人で歩く何度目かのあじやら山。貞策の心に一つの信念が固まります。

「スキー場を作るにはこの山が最適である。」

貞策は原子保雄に人を集めること、スキーを用意することを約束させ、大正11年、初めて大鰐でスキーの講習会が実現します。（大鰐スキー講習会参加者50名）

原子は、大鰐の各温泉旅館にお客様にスキーを履かせるためと説得して、大きい旅館は5台、小さい旅館は3台、スキーを買ってもらおう約束をとりつけ、スキー靴は軍の靴が丁度金具に合ったので、安く払い下げてもらい用意しました。

大正7年、33歳の貞策は大尉に昇進し陸軍のスキー訓練をはじめとして、各官庁や学校のスキー指導など、スキーの第一人者として忙しい日々を過ごします。

大正9年になるとスキーの発祥地、新潟県高田で全国スキー大会が開催されるなどの情報が伝わり、県内のスキー熱が次第に高まってきます。ちようどその頃、貞策の出身地大鰐では大きな問題が燃り始めます。

明治28年に鉄道が開通し、大鰐は湯治客や観光客が急増し、大変繁栄しますが、その反面、風紀が乱れ青少年に大きく悪影響を及ぼします。

その頃、大鰐郵便局長だった原子保雄は、この若者たちを何とか立ち直らせようと考えます。原子は青森市で行われた講習会で初めてスキーに惚れ込みます。「これを若者達にやらせれば、ストレス発散になるし大鰐の名物にもなる」と考え、大鰐出身の貞策のもとに駆け込みます。しかし、貞策はその依頼を一度は断りましたが、大鰐への思いはつりまします。

その後、貞策は雪中行事での実地訓練を行いつつ、スキー講習会に適

出向き、軍が来て協力しているのだから村も協力しろとハッパをかけます。こうしてゲレンデの整備は着々と進み、全国的にスキー熱が高まる中、大正12年2月2日「第1回全日本スキー選手権東北大会」が大鰐で開催され、貞策のスキーに賭ける思いが最初の実を結びます。

その当時、駅が近く、多彩なコースが取れるスロープを持つスキー場は全国でも珍しく、しかも周辺は温泉旅館が立ち並び、歓楽街もある、まさにリゾート地を秘めた大鰐。

全日本スキー連盟の設立の立役者として、そして次々と大きな大会を大鰐に誘致。青森県代表が勝ち取ったすばらしい成績。そのすべてが油川貞策一人の力でなし得たものではありませぬ。多くの人々の協力と情熱と時流がなし得た結果として今日があります。その中で陰になり日向になりながら油川貞策の姿があるのも事実です。

昭和10年、スキー選手と林業従事者の安全祈願のためにスキー神社が建立されました。現在もスキー神社は、スキー場と大鰐町が見渡せるゲレンデにひっそりと佇んでいます。



スキー王国の礎を築いた 本県スキーの父・油川貞策

***油川 貞策 (1885~1951年)**
あぶらかわ ていさく
明治18年大鰐村第二代村長油川和五郎の四男として誕生。県立弘前中学から陸軍士官学校に進み、弘前第五十二連隊、三十一連隊に所属。明治45年、新潟・高田で開かれたスキー講習会に参加、オーストリアのレルヒ少佐からスキーの指導を受ける。その後、講習会などを通じて本県のスキー普及に奔走。大正12年に大鰐で全日本選手権東北予選会、大正15年に第三回全日本大会を開催、ともに陣頭指揮を執り大会を成功させる。その功績から、本県スキーの父と呼ばれる。

***レルヒ少佐 (1869~1945年)**
テオドル・エドラー・フォン・レルヒ
日本に初めてスキーを教えたオーストリアの軍人。明治43年、日露戦争に勝利した日本陸軍の研究のため来日したレルヒは翌44年、13師団視察のため高田を訪れ、自費で作った軍用スキー10台を寄贈した。スキーに関心を持っていた長岡師団長の願いにより、1月12日金谷山において軍人に対してスキーの指導が行われ、日本でのスキーの始まりになった。



100年の歴史を持つ「大鰐温泉スキー場」を紹介します！
東北自動車道「大鰐・弘前IC」より車で約15分と好アクセス。全国レベルの大会も開催される県内トップクラスのスキー場で、ゆったりと滑り降りる林間コース及びファミリーで楽しめる緩やかな広いゲレンデと、超上級者から初級者までコースバリエーションが多岐で、たてもお楽しみいただけます。

国際エリアは、ヘアリフトを主なアクセスポイントに、競技スキー場として名高いFIS公認の「雨池国際コース」、上級者におすすめの「前平バーン」「滝の沢バーン」「神沢バーン」子供やソリ遊びに人気の「ラビットコース」などがあります。

大鰐温泉スキー場
●営業 12月下旬～3月中旬頃
●雨池スキーセンター
☎0172-49-1023



桜も終わり、そよ風吹く5月下旬、大鰐町を見下ろす茶臼山公園には、色鮮やかなつつじが山いっぱい咲き誇ります。

大鰐碓ヶ関温泉郷県立自然公園「茶臼山公園」は、昭和30年中頃までは桜の名所として親しまれていました。現在、園内を美しく彩るつつじは、昭和41年、大鰐中学校の生徒たちが入学記念につつじを植樹したこと

茶臼山公園には、六十九の俳句を刻んだ石が山頂へと導くように立ち並ぶ遊歩道「俳句の小径」があります。山道に佇む句碑は、十和田俳句会を主宰する増田手古奈の八十歳を記念して大鰐町在住の俳句のグループの門弟たちが中心となって昭和五十一年の十月に完成させたものです。

小径の出発点である公園内の八幡宮より頂上への道行、そして羽黒神社へと下る坂道の端に六十二の句碑が点在しています。俳句を読みながら散策するのも茶臼山公園の楽しみ方の一つになっています。

『初雪の山横たふや
温泉の町』

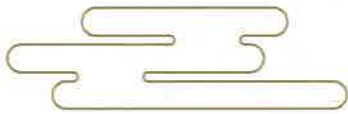


俳句の小径

俳人たちの足跡に 心が洗われます

増田手古奈 (1897~1993)

俳誌「十和田」の主宰者。本名、義男は、明治三十年十月三日、南津軽郡蔵館村(大鰐町蔵館)に父滝弥の長男として誕生。同三十七年に大鰐小学校入学。青森県立中学校、官立第二高等学校(仙台)、東京帝国大学医学部、同大学院を経て昭和六年六月に医学博士となり、同年十月大鰐町に帰郷し、医院を開業。昭和三年に死去した父の家業を継ぐ。大正十二年、二十七歳の時に俳句を始め、大学の同じ法医学研究生である水原秋桜子、高野素十らと共に高浜虚子門下に入り、「手古奈」の俳号はこの頃から用い、四天王とたわれるほどの才能を発揮。数々の秀作を世に残している。



がきっかけになっています。その後、毎年植樹が続けられ、今では「紅きりしま」「日の出きりしま」「久留米つつじ」「藤ぼたん」など、40数種・総数1万5千本以上を数えるつつじの名所となっています。

毎年5月下旬より開催される「大鰐温泉つつじまつり」は県内外より観光客が訪れ、たいへん賑います。



起伏に富む園内は散策に最適です



町をぐるりと一望でき つつじが咲き誇る茶臼山公園

